

2019年度 新潟農業・バイオ専門学校 学校関係者評価委員会 実施報告

新潟農業・バイオ専門学校 教務部

日時 2019年6月15日(土) 16:30-18:00

場所 新潟農業・バイオ専門学校 303教室

学校関係者評価委員会 出席者

| | |
|-------|-----------------------------|
| 富樫 純一 | 新潟新栄自治会 会長(近隣住民) |
| 後藤 孝之 | 株式会社 日本フードリンク 代表取締役社長(関連企業) |
| 渡辺 弘友 | 新潟県立植物園 副参事(関連団体) |
| 西村 賢太 | 株式会社 新潟ケンペイ(卒業生) |
| 片桐 竜司 | 株式会社 峰村商店(卒業生) |
| 菅原 夏美 | 牛歩園緑化 株式会社(卒業生) |
| 川嶋 悦子 | 在学生保護者 |

新潟農業・バイオ専門学校(参加者)

学校長 江口 五郎/顧問 阿部 貴美/教務部長・就職部長 秋山 正之
農業経営科・先端農業技術科主任 渡辺 大輔/園芸デザイン科主任 北澤 道子
農業経営科講師 田村 晃宏/先端農業技術科講師 榎坂 寛幸/園芸デザイン科講師 増田 和人
バイオテクノロジー科学科長 岡野 康弘/バイオテクノロジー科主任・放送大学統括 峯岸 希一
バイオテクノロジー科講師 矢島 裕幸

■委員会内容

- ① 2018(平成30)年度 学校運営・教務実績報告
- ② 2018(平成30)年度 内部評価委員会 評価報告
- ③ 2018(平成30)年度 学校関係者評価 協議
- ④ 意見交換会

■学校関係者評価委員会委員からの意見・質問(「→」は当校よりの回答)

- ①・② 学校運営・教務実績

【農業経営科への質問】

- ・留学生が平成30年度は6名入学しているが、彼らが日本で、新潟で農業を学びたい理由は何か
→ 本国に戻り自然栽培を伝える、本国で農業に関する企業に就職するなどさまざまだが、日本の農業技術や経営を習得し本国に伝えることは共通している。大学の農学系学部では農業技術が学べないことから専門学校を選択していることも理由として認識している。

【農業経営科への質問】

- ・学生運営会社「食娯楽」の活動を充実させるために、地域イベントへ積極的に出店してほしい。
→ 現在、複数の企業から活動のオファーをいただいている。地域での朝市も出展したので今後も教育活動を地域に周知し、理解いただくために活動していきたい。

【園芸デザイン科への意見】

- ・フラワー業界でも造園知識が必要、造園業界でもフラワー知識が必要。平成30年度から園芸デザイン科はコース別に分かれるが、フラワー、造園両方の知識が学べる仕組みは継続してほしい。
→ フラワー、ガーデン両方の知識を学ぶことへの意義と、それを業界が求めていることは十分認識している。今後も継続していきたいと考えている。

③ 内部評価委員会 評価報告

【学校運営への意見】

- ・卒業生の状況把握を実施し、卒業生とのつながりを強化すべき。
 - 卒業生の就業状況は年1回、校友会主催イベントの案内にて往復ハガキで確認している。返信の回収は直近3年の卒業生が中心で、年数の経過に比例して減少している。また、転職の後ろめたさから報告しないケースもある。卒業生とのつながりは前述の通り、校友会による卒業生イベントを年1回主催しているが、県外出身生も多く参加数は少ないのが現状。

【学校運営側への意見】

- ・学校のホームページは充実しているが、保護者向けへの情報提供もさらに充実させる必要があると感じている。
 - 保護者への情報提供として、年3回の保護者会の実施、年4回の教務部だよりの郵送を行っているが、保護者アンケートでは連携不足と指摘している点も多い。希望者に向け、月1回メールでの情報発信等、新たな情報提供も検討する。

【学校運営側への意見】

- ・新潟市、新潟県、近隣小学校、地域のNPO法人などとの連携が図られている。ABiO祭の実施により、近隣住民との交流を積極的に行っている点は評価できる。新潟の地域活性のために若者の教育に努めてほしい。
 - 校訓に「調和」を掲げており、学生の地域ボランティア活動への参加は必須としている。地域社会への貢献によって学び得ることは多い。今後も推奨して行きたい。

④ 学校関係者評価

事前に行った、評価委員各人の学校関係者評価の資料として提示。

委員協議の結果、各評価項目の数値を決定。

学校側、学校関係者評価委員会委員全参加者が評価を承認し、評価決定に至った。

以上